

ナルニア国物語

魔術師のおい

20

C・S・ルイス

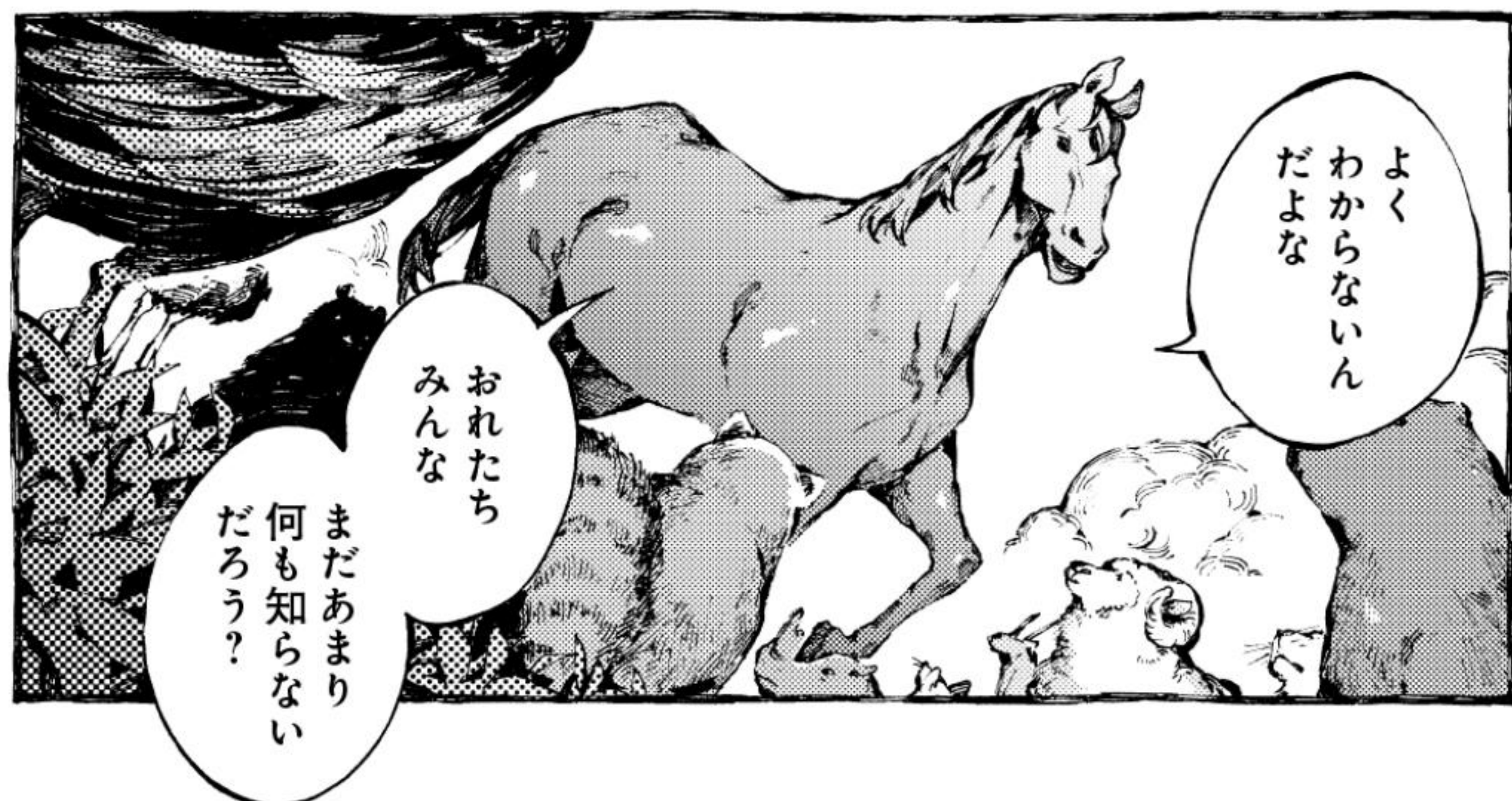
土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第20話 最初のジョークと、そのほかのこと(後編)





けど

こういうモノを
前に見たことが
あるような気は
するんだよね

なんか

前は
ちがうところに
住んでたような
気もするし…

—ていうか

自分が
なんかちがうもの
だったような
気がする

—アスランが
ちよつと前に
みんなを
目ざめさして
くれたより
前の話なんだけども

なんだか

えらく
ごちやごちや
してんだ

夢みたいに

けど

この三つのモノ
みたいなのが
夢に出てきたような
気はするなあ

なんだって？

あたしを
おぼえて
ないって？

おまえさんの
具合が悪い夜
なんかにや

あったかい
マッシュを
持ってたの？
やったのに？

ちゃんとブラシも
かけてやったのに？

寒い時期に
立たせっぱなしに
しておくときにや

忘れずに毛布を
かけてやったのに？

おまえさんが
そんな薄情な
やつだとは
思わなかったよ

ストロベリー

…ああ

そうだ

思い出して
きた



あんたは
何だか黒くて
恐ろしいものを
おれの後ろに
くくりつけて

…そうだ

そんでもって
おれをたたいて
走らせたんだ



ちよつと
待ってくれ

いま
思い出すから



そんで

どこまで
走っても

その黒いやつは
ずーっとガタガタ
いいながら
後ろから
追っかけてきたっけ



生きるために
稼がにや
ならんかったんだよ

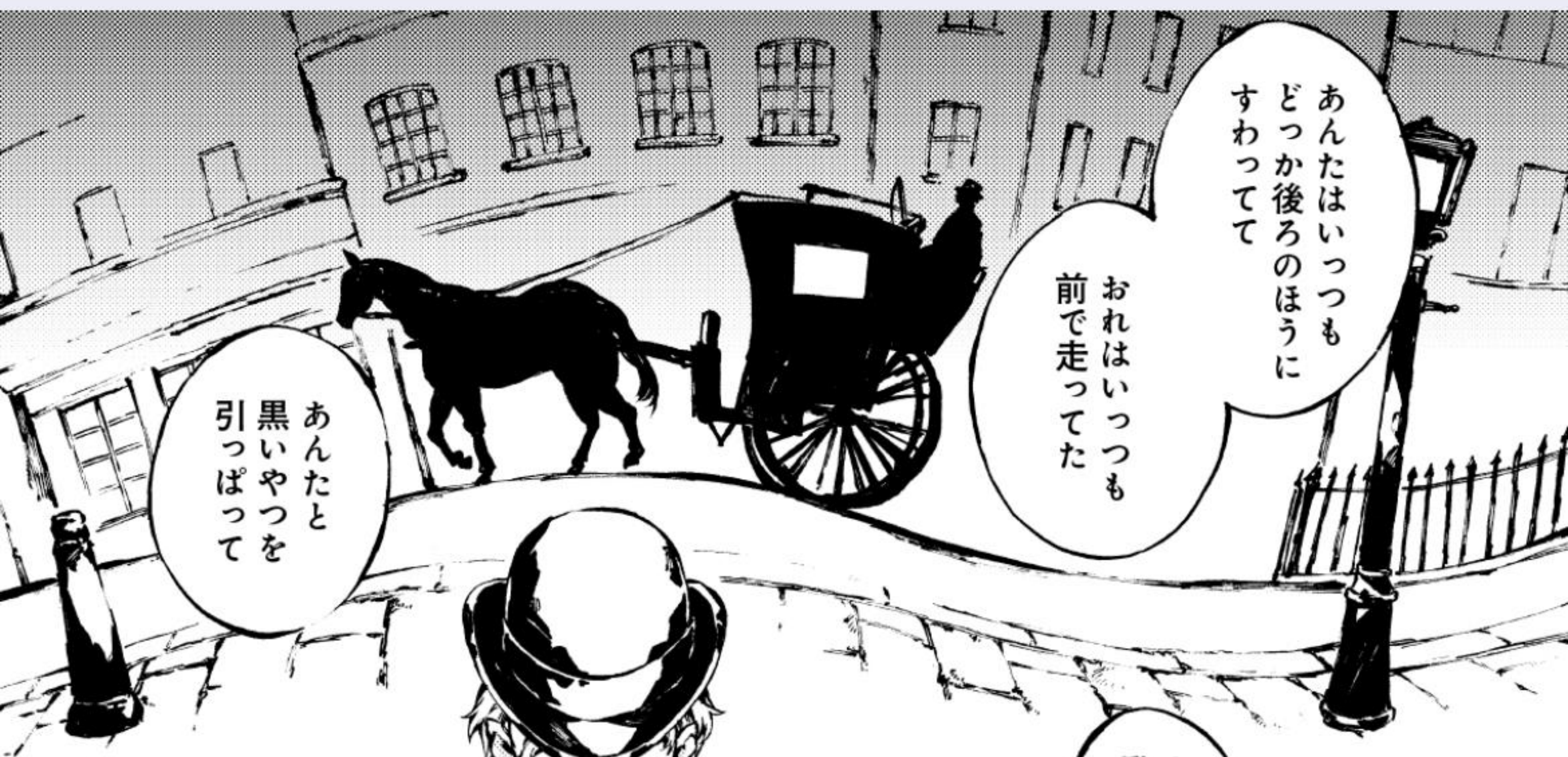
な？

おまえさんの
暮らしも

あたしの
暮らしも

あれに
かかってたんだ





あんたはいつつも
どっか後ろのほうに
すわってて

おれはいつつも
前で走ってた

あんたと
黒いやつを
引っぱって

もっぱらおれが
働いてたんだな

……夏場は
そうだった
かもしれん



おまえさんは
あつたかくして
られるけど

あたしや御者席に
すわったまんま
足は氷みてえに
冷えるし

鼻は冷たい風で
もげそうになるし

手はかじかんで
手綱を握るのも
やっと
だったんだぞ？



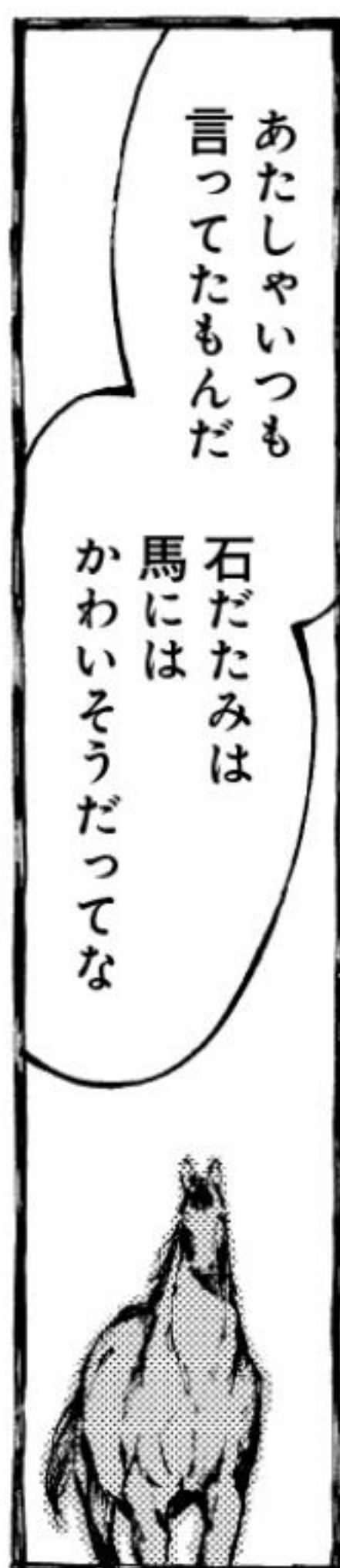
おまえさんが
暑い思いをして
働いて

あたしや
御者席にすわって
涼しくしてた



けど

冬は
どうだい？



あたしだって

おまえさんと
同じで
あんな街は
きらいだった

おまえさんは
田舎育ちの
馬だし

あたしも
田舎育ちの男だ

昔は合唱隊で
歌を歌った
もんだった

けど

田舎の実家に
おった時分は

…すみません

あの

お願いします

田舎じゃ暮らして
いけなかったのさ





ぼく

どうしても……

どうしても
ライオンと
話がしたいんです

急いで
もらえませんか？

ライオンが
どんどん遠くへ
行っちゃう……



おまえさん
たちが
アスランとか
呼んでる

あの
ライオンに



なあ

ストロベリーよ

この坊や

あのライオンに
話が
あるんだそうだ



どうだろう

この坊やを
背中に乗せて

ライオンの
ところまで
ひとつ走り
連れて行ってやって
くれんかね？









あそここのあれ

むこうのほう

さっきの
へんちくりんな
生き物の仲間じゃ
ないか？

木の下……

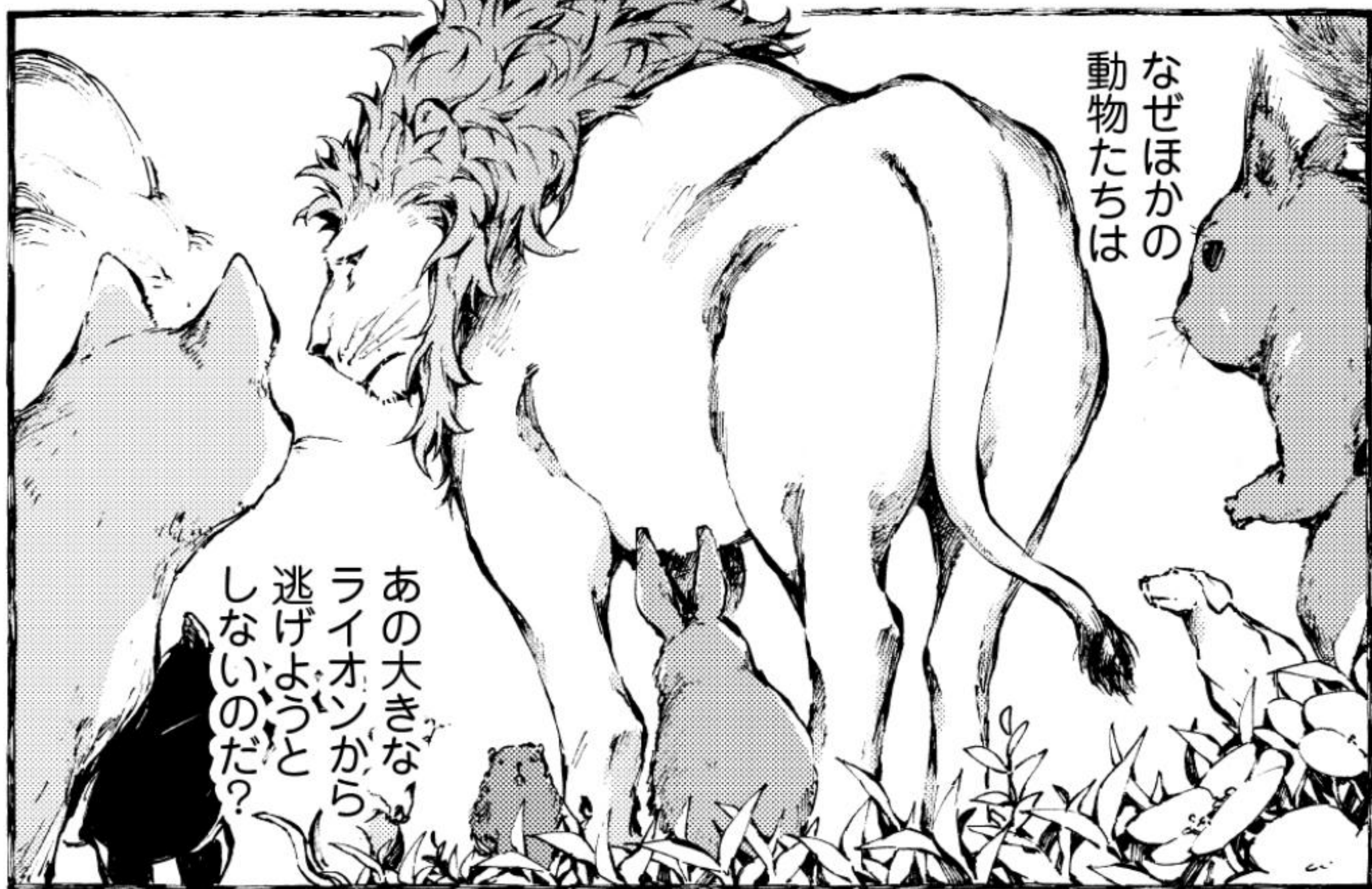
川の
すぐそば

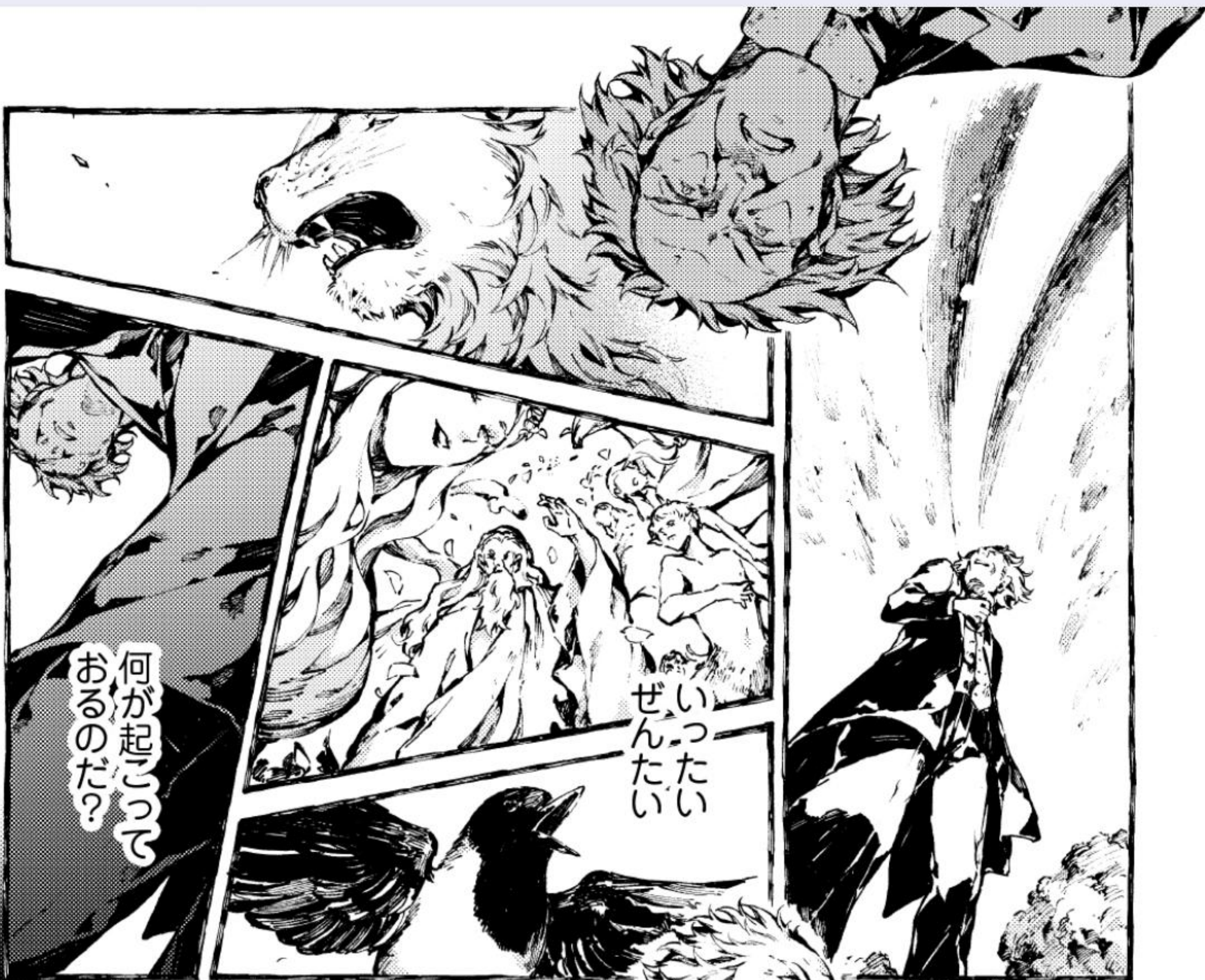
行こう！











何が起こつて
おるのだ？

ぜい
たい
たい



何ひとつ
理解できないこと
ばかりだ！

ここに
来てからというもの

そもそも



なんだ？

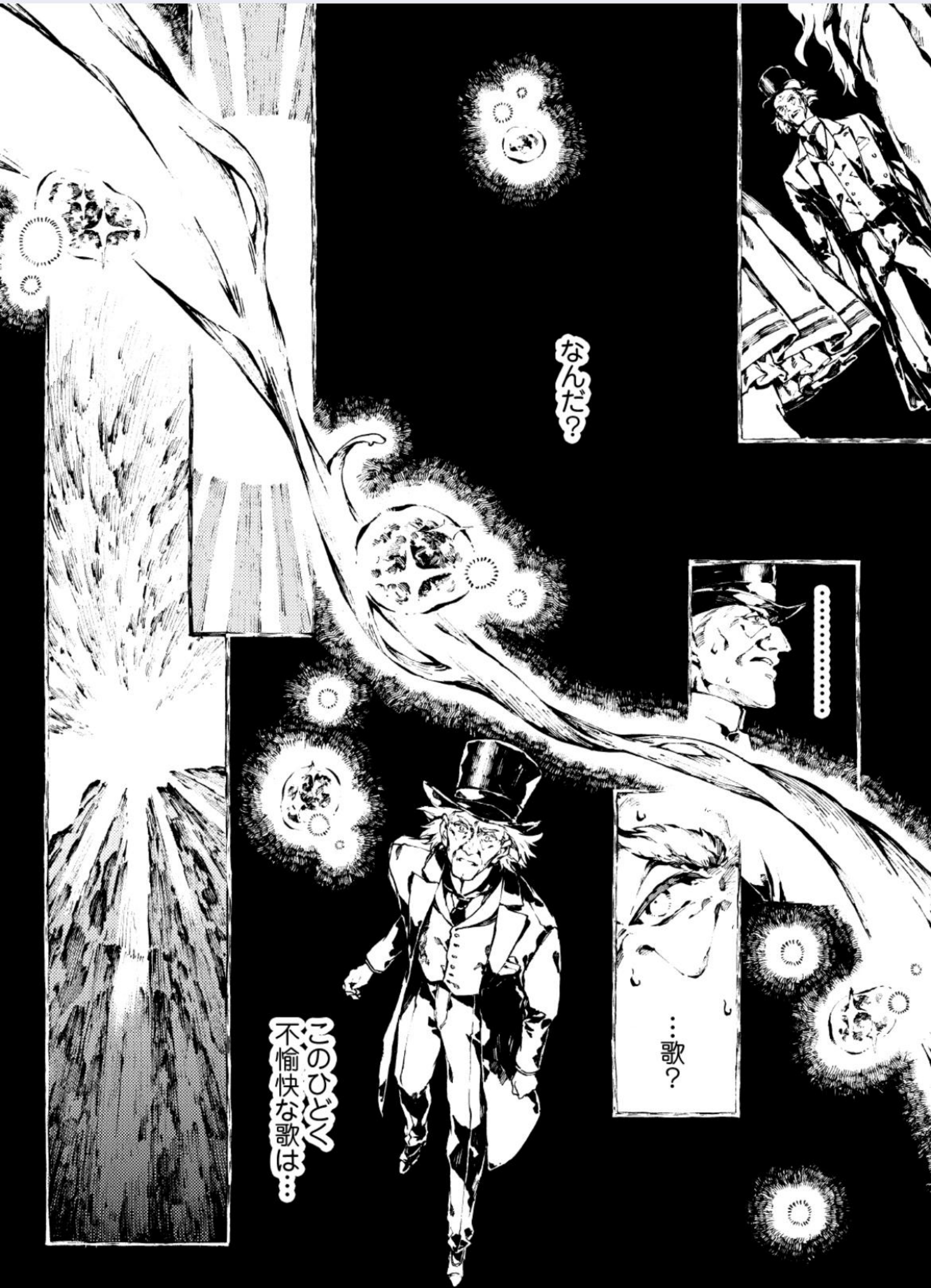


……



…歌？

このひどく
不愉快な歌は…







ナルニアよ

レ
レ
レ

目ざめよ

ア
ン
ン



アスラン万歳





これで

指輪は
子どもたちと
いっしょに
野獣に
食われてしまつて

わたしは二度と
家にもどれなくなるに
ちがいない



デイゴリーめ

なんと
自分勝手なやつ
なのだ!

ほかの連中も
連中だ



命を捨てたいのなら
好きにすればいいが

このわたしは
どうなる?

連中は
そこのところを
考えておらんだ







